

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：34602

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26284013

研究課題名(和文) 井筒・東洋哲学の構築とその思想構造に関する比較宗教学的検討

研究課題名(英文) The Examination of the Construction of Izutsu's Oriental Philosophy and Its Philosophical Structure from the Perspectives of Comparative Religion

研究代表者

澤井 義次 (SAWAI, Yoshitsugu)

天理大学・人間学部・教授

研究者番号：30178826

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,900,000円

研究成果の概要(和文)：この共同研究では、東洋思想・イスラーム学的世界的碩学、井筒俊彦が構想した「東洋哲学」の思想構造を一つの有意義的な思想空間として捉え、東洋の諸宗教思想の視座を踏まえながら、井筒・東洋哲学について、比較宗教学的な視点から検討をおこなった。

具体的には、3年間で合計6回、国の内外の井筒研究者と一緒に掘り下げた討議を行ない、井筒・東洋哲学の思想構造とその特徴を明らかにすることができた。さらに井筒研究に関する「井筒俊彦データベース」も一般に公開することができた。この比較宗教学的な共同研究によって、井筒・東洋哲学が内包する理論的展開の可能性も明確にすることができた。

研究成果の概要(英文)：In this collaborative research, regarding the philosophical structure of "Oriental Philosophy" which Toshihiko Izutsu, a distinguished Japanese scholar of Oriental philosophy and Islamic thought, attempted to formulate, as a meaningful space of thought, we examined his philosophy from the perspectives of comparative religion, based on Oriental religious thoughts.

For last three years, we had six research forums to clarify the philosophical structure of Izutsu's Oriental Philosophy and its essential characteristics with scholars of religious studies in Japan as well as in foreign countries. Moreover, as the result of our research project, the "Database of Toshihiko Izutsu" is available now. Through the collaborative research of comparative religion, we could elucidate the possibilities of philosophical development of his Oriental Philosophy.

研究分野：宗教学・インド学

キーワード：比較宗教学 井筒俊彦 東洋哲学 哲学的意味論 意味分節理論 言語哲学 意味の深み 共時的構造化

1. 研究開始当初の背景

(1) 東洋思想・イスラーム学の世界的研究、井筒俊彦(1914-1993)が逝去した後、井筒を知る宗教学者を中心に発足した「井筒ライブラリー・東洋哲学」編集委員会が、井筒研究の成果を蓄積していた。この委員会では、研究代表者の澤井義次と研究分担者の鎌田繁教授(東京大学)は核となる編集委員であった。2013年秋に刊行を開始した『井筒俊彦全集』(全12巻・別巻、慶應義塾大学出版会)も、そうした研究成果の一つであった。さらに日本宗教学会学術大会でも、井筒・東洋哲学に関するパネル発表を、澤井がパネル代表としておこなっていた。

(2) 井筒・東洋哲学は、海外でも「井筒ライブラリー・東洋哲学」叢書(英語・独語・仏語)などの出版によって、広く学的関心を集めるようになっていた。たとえば、ハーバード大学、オックスフォード大学、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラ大学などの大学では、井筒・東洋哲学の講演や研究会が開かれた。また、イランやエジプト、マレーシアなどのイスラーム圏でも、井筒研究が積極的に進められていた。それらの会議の成果は英語で出版されていた。

2. 研究の目的

井筒・東洋哲学研究の世界的な拡がりの中で、井筒・東洋哲学を比較宗教学の視座から批判的に検討し、その哲学の構造とその特徴を解明することを研究目的とするものであった。具体的には、おもに次の3点であった。

(1) 井筒・東洋哲学に関するキータームのデータ化を進め、それらのキータームに関連した井筒・東洋哲学研究のデータベース化をおこない、そのデータベースを一般公開する。

(2) 井筒・東洋哲学の構造とその特徴を解明するために、インド思想、中国思想、イスラーム思想、キリスト教思想などを比較宗教学的な視座から分析するとともに、宗教哲学や宗教心理学などの宗教学の方法論的な視座からも批判的に検討する。

(3) 井筒の死によって未完となった井筒・東洋哲学の構造とその特徴について、比較宗教学の視点から多角的に探究し、その研究成果を研究フォーラムや日本宗教学会パネル、さらに著書・論文をとおして発表し、世界へ向けて発信する。

3. 研究の方法

(1) 研究の目的を達成するために、研究代表者の澤井を中心として、井筒・東洋哲学に関するキータームのデータ化を進めるとともに、それらのキータームに関連した井筒・東洋哲学に関する研究文献について、すべての著作データのデータベース化をおこない、そ

のデータベースを一般公開する。

(2) 比較宗教学的な視座から、井筒・東洋哲学の構造とその特徴を解明する。具体的にはインド思想、中国思想、イスラーム思想、キリスト教思想などの宗教史的な視点から、井筒・東洋哲学の構造を分析する。それと同時に、宗教哲学や宗教心理学などの視座から、井筒の方法論的枠組みも批判的に検討する。

(3) 井筒・東洋哲学に関する比較宗教学的な検討を踏まえて、その思想体系とその特徴を明らかにする。その研究成果を研究フォーラム、日本宗教学会および国際宗教学宗教学会でのパネル、さらに著書・論文などをとおして、世界へ向けて発信する。

4. 研究成果

(1) この研究プロジェクトでは、研究代表者と研究分担者がお互いに情報交換しながら、井筒・東洋哲学に関するキータームのデータ化を進めるとともに、それらのキータームに関連した井筒・東洋哲学に関する研究文献のデータベース化を、研究協力者の長岡徹郎氏(京都大学・非常勤講師)の援助を得ておこなった。さらに、研究代表者と各研究分担者は、研究協力者とともに、各自が専門領域とする比較宗教学の視座から、井筒・東洋哲学の思想構造とその特徴を探究した。

(2) この研究プロジェクトにおいて、研究代表者と研究分担者の役割分担は、以下のとおりであった。

* 研究代表者

澤井義次(天理大学・教授) 井筒・東洋哲学の検討と総括、およびインド思想の視座からの研究

* 研究分担者

鎌田 繁(東京大学・名誉教授) イスラーム思想の視座からの研究

野元 晋(慶應義塾大学言語文化研究所・教授) イスラーム・キリスト教思想の比較的視座からの研究

氣多雅子(京都大学・教授) 日本の宗教思想の視座からの研究

市川 裕(東京大学・教授) ユダヤ思想の視座からの研究

池澤 優(東京大学・教授) 中国思想の視座からの研究

河東 仁(立教大学・教授) 宗教心理学の視座からの研究

島田勝巳(天理大学・教授) キリスト教思想の視座からの研究

以上の研究者が、それぞれ各自の専門領域を踏まえた宗教学的な視座から、井筒・東洋哲学の構造とその特徴を探究した。

(3) 研究期間の3年間に、この研究プロジェクトでは、国際研究フォーラムを含めて、合計6回の研究フォーラムを開催した。また日

本宗教学会学術大会や国際宗教学宗教史学会でも、井筒・東洋哲学に関するパネル発表をおこなった。ここでは、各年度に沿って、それらの研究成果の概要を簡潔に報告しておきたい。

平成 26 年度には、第一回研究フォーラムを平成 26 年 6 月 14 日（土）天理大学で開催した。この研究フォーラムでは、研究代表者と研究分担者のあいだで、井筒・東洋哲学の主要な論点を確認しながら、井筒・東洋哲学に関する検討課題を共有した。研究分担者の鎌田繁教授（東京大学）は発題 1「井筒俊彦とイスラーム」をおこない、研究代表者の澤井が発題 2「井筒俊彦とインド宗教思想」をおこなった。

第二回研究フォーラムは、平成 26 年 11 月 22 日（土）東京大学東洋文化研究所において開催された。まず、氣多雅子教授（京都大学）が発題 1「井筒俊彦における哲学と体験」をおこない、次に市川裕教授（東京大学）が発題 2「井筒俊彦とユダヤ思想 哲学者マイモニデスを中心に -」をおこなった。その後、発題の内容をめぐって全体討議をおこない、井筒・東洋哲学の構造に関する理解を深めた。翌 11 月 23 日（日）には、鎌倉の井筒宅を訪問し、井筒自らが「東洋哲学」を構想した現場に身を置いて、井筒の蔵書をひもときながら、井筒・東洋哲学の特徴について討議した。

また平成 26 年 9 月 13 日（土）同志社大学で開催された日本宗教学会学術大会において、澤井をパネル代表として学会パネル「井筒俊彦の「東洋哲学」への宗教学的視座」をおこない、鎌田教授、氣多教授、澤井を中心に共同研究の成果を発表した。その結果、井筒・東洋哲学の宗教学的意義がいつそう明らかになった。

平成 27 年度には、第三回研究フォーラムを平成 27 年 4 月 25 日（土）京都大学で開催した。池澤優教授（東京大学）が発題 1「現代的状況に対する井筒思想の適用可能性」をおこない、次に研究協力者の下田正弘教授（東京大学）が発題 2「言語、意識、存在」をおこなった。その後の全体討議をとおして、井筒・東洋哲学の現代的意義が明らかになった。翌 4 月 26 日（日）には、井筒と親交のあった宗教学者・西谷啓治の蔵書を研究調査した。

第四回研究フォーラムは、平成 27 年 11 月 14 日（土）慶應義塾大学で開催した。河東仁教授（立教大学）の発題 1「ユング心理学と禅」、野元晋教授（慶應義塾大学）の発題 2「イスマール・シーア派思想と井筒俊彦」の後、井筒・東洋哲学の構造とその特徴について全体討議をおこなった。前日には、同大学メディアセンターで、井筒の執筆原稿の研究調査をおこない、井筒の哲学的思惟の経緯を把握する一つの契機となった。

そのほか、国の内外で研究成果を発表した。

まず、平成 27 年 8 月 27 日（木）ドイツのエアフルトで開催された第 21 回国際宗教学宗教史学会（IAHR）では、パネル発表「井筒俊彦と東洋思想」（代表・澤井義次）をおこなった。研究分担者の池澤優教授（東京大学）、研究協力者の下田正弘教授（東京大学）とフアン・ロベス講師（天理大学）、澤井が研究発表をおこなった。研究発表に対して、米国の宗教学者・G・アッレス教授（米国マックダニエル大学）がコメントをおこない、その後、活発な討議をおこなった。海外でも、井筒・東洋哲学が次第に注目されてきていることが明らかになった。

さらに平成 27 年 9 月 6 日（日）日本宗教学会学術大会（創価大学）において、研究分担者の鎌田繁教授（東京大学）をパネル代表として、パネル発表「東洋の宗教思想と井筒俊彦の哲学的思惟」をおこなった。研究分担者の河東仁教授（立教大学）と池澤優教授（東京大学）、研究協力者の下田正弘教授（東京大学）と金子奈央研究員（中村元東方研究所）が研究成果を発表し、その後、井筒・東洋哲学の方法論などをめぐって討議が展開された。

平成 28 年度には、平成 28 年 10 月 15 日（土）第五回研究フォーラムとして、国際研究フォーラム「井筒俊彦と宗教研究」を天理大学で開催した。この国際会議には、海外から二名の宗教学者、すなわち G・アッレス教授（米国マックダニエル大学）とアニス・トーハ学長（インドネシア スルタン・アゲン・イスラーム大学）を招いた。まず最初に、研究代表者の澤井が「共同研究の報告および会議の趣旨説明」をおこない、その後、研究分担者の鎌田繁教授（東京大学）が講演 1「井筒俊彦のイスラーム研究とその「東洋哲学」への展開」をおこなった。次にアッレス教授が講演 2「宗教研究の源としての井筒俊彦 北米からの視点」を、さらにトーハ学長が講演 3「メタ・ヒストリカルな対話 井筒の宗教間対話への試み」をおこなった。最後に研究分担者の氣多雅子教授（京都大学）が講演 4「形而上学的体験の極所 井筒の「精神的東洋」についての一考察」をおこなった。これらの講演に対して、研究分担者の野元晋教授（慶應義塾大学）がコメントした後、全体討議をおこなった。これらの講演と討議をとおして、井筒・東洋哲学における言語的意味分節理論の特徴、意識構造論と存在論の連関性を明らかにすることができた。

平成 28 年 9 月 10 日、日本宗教学会の第 75 回学術大会（於 早稲田大学）では、澤井をパネル代表としてパネル発表「井筒俊彦の「東洋哲学」における宗教と言語」をおこなった。研究分担者の鎌田教授（東京大学）と島田勝巳教授（天理大学）、研究協力者の小野純一・非常勤講師（東洋大学）、さらに澤井が研究発表をおこなった。研究発表に対して、氣多教授（京都大学）がコメントした後、

井筒・東洋哲学の世界観について討議した。
最後に、平成 29 年 2 月 18 日・19 日に、第六回研究フォーラムとして、纏めの研究会を金沢市の鈴木大拙館とかほく市の西田幾多郎記念哲学館で開催した。井筒の思想は鈴木大拙や西田幾多郎の哲学と類似の思想構造を内包しており、二つの記念館を訪問することによって、井筒・東洋哲学の特徴を比較思想的な視座から考察した。

(4) 以上の研究フォーラムのおもな内容については、『研究活動報告書 井筒・東洋哲学の構築とその思想構造に関する比較宗教学的検討』(平成 29 年 3 月 1 日、天理大学 DP センター刊)を刊行した。さらに井筒・東洋哲学については、平成 29 年 4 月以降、長岡哲郎氏(京都大学・非常勤講師)によって編集された「井筒俊彦データベース」を一般公開している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 28 件)

澤井 義次、シャンカラ派における救いの意味構造、『印度学仏教学研究』、査読有、第 65 巻第 2 号、2017、pp.536-543.
<http://www.inbuds.net/jpn/>

澤井 義次、井筒・東洋哲学におけるインド宗教思想と言語、『宗教研究』、査読有、第 90 巻別冊、2017、pp.39-40.
<http://jpars.org/journal/search>

鎌田 繁、井筒のイスラーム研究と意味論、『宗教研究』、査読有、第 90 巻別冊、2017、pp.35-36.
<http://jpars.org/journal/search>

鎌田 繁、クルアーンとイスラームの思索、『学会会報』、査読有、918 号、2016、pp.49-53.
<http://www.gakushikai.or.jp/magazine/bulletin/>

池澤 優、書評：K.E. Brashier, *Ancestral Memory in Early China*(古代中国における祖先の記憶)、『中国出土資料研究』、査読有、第 20 号、2016、pp.176-196.
<http://iss.ndl.go.jp/books/R100000002-I000000101768-00>

島田 勝巳、井筒「東洋哲学」とその外部、『宗教研究』、査読有、第 90 巻別冊、2017、pp.36-37.
<http://jpars.org/journal/search>

澤井 義次、シャンカラ派における信(sradha)の概念とその意味、『印度学仏教学研究』、査読有、第 64 巻第 2 号、

2016、pp.751-758.
<http://www.inbuds.net/jpn/>

鎌田 繁、Hidden Words (from Kalimat maknunah), Divine Sciences (from Maarif ilahiyah)[of Mullah Muhsin Fayd Kashani, translated from Arabic and Persian], *An Anthology of Philosophy in Persia*, 査読無、vol. 5, 2015, pp.308-326.
<https://muse.jhu.edu/article/621947/pdf>

池澤 優、儒教のお葬式、『佛教文化』、査読無、第 54 号、2016 年、pp. 45-66
<http://www.tibs.jp/about/journal/>

氣多 雅子、宗教哲学の視点とキリスト教研究、『日本の神学』、査読無、No.54、2015、pp.188-192
<http://www.gakkai.ac/jscs/journal/>

市川 裕、神殿供儀から啓示法 — 神教の歴史におけるラビ・ユダヤ教の意義、『東京大学宗教学年報』、査読無、第 31 号、2015、pp.1 - 19.
<http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/dspace/handle/2261/23646>

市川 裕、井筒俊彦とユダヤ思想 哲学者マイモニデスをめぐって、『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』、査読有、46 号、2015、pp.49-69
<http://ci.nii.ac.jp/ncid/AN00069467>

池澤 優、生命倫理と伝統的文化 中国における知情同意に関する論争を題材に、『死生学・応用倫理研究』、査読有、第 20 号、2015、120 - 151
<http://ci.nii.ac.jp/ncid/AA12605616>

澤井 義次、井筒俊彦とインド哲学、『道の手帖 井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』(河出書房新社)、査読有、6 月 20 日号、2014、pp.180-187.
http://www.kawade.co.jp/np/search_result.html?ser_id=74000

鎌田 繁、イスラームと仏教、『東洋学術研究』、査読有、第 53 巻第 2 号、2014、pp. 25-51.
http://www.totetu.org/publication/3/d_02_164/

〔学会発表〕(計 39 件)

澤井 義次、井筒・東洋哲学におけるインド宗教思想と言語、日本宗教学会第 75 回学術大会パネル(代表者：澤井義次)「井筒俊彦の『東洋哲学』における宗教と言語」、2016 年 9 月 10 日、早稲田大学

澤井 義次、意味論としての井筒・東洋哲学、井筒俊彦全集完結記念講演会（慶應義塾大学言語文化研究所主催）、2016年9月24日、慶應義塾大学

鎌田 繁(Shigeru Kamada)、"Toshihiko Izutsu and His Islamic Studies as Reflected in His Japanese and English Sources," at the Symposium: The Contributions of Japanese Scholar Toshihiko Izutsu to Islamic Studies, Muhammad Bin Hamad Al-Thani Center for Muslim Contribution to Civilization & HBKU—College of Islamic Studies (招待講演) 2017年3月27日、Hamad Bin Khalifa University (Doha, Qatar)

鎌田 繁、"Multilayer Structure of the Meaning in the Quranic Text and the Development of Islam." 圓佛教 100 周年圓光大学校開校 70 周年記念 国際学術大会(招待講演) 2016年4月29日、圓光大学校(韓国・益山市)

鎌田 繁、井筒のイスラーム研究と意味論、日本宗教学会第 75 回学術大会パネル(代表者：澤井義次)「井筒俊彦の『東洋哲学』における宗教と言語」、2016年9月10日、早稲田大学

氣多 雅子、パネル「井筒俊彦の『東洋哲学』における宗教と言語」におけるコメント、日本宗教学会第 75 回学術大会パネル(代表者：澤井義次)「井筒俊彦の『東洋哲学』における宗教と言語」、2016年9月10日、早稲田大学

氣多 雅子、信の宗教と浄土の思想、大谷大学真宗学会(招待講演) 2016年10月26日、大谷大学

島田 勝巳、井筒「東洋哲学」とその外部、日本宗教学会第 75 回学術大会パネル(代表者：澤井義次)「井筒俊彦の『東洋哲学』における宗教と言語」、2016年9月10日、早稲田大学

鎌田 繁、「一神教」としてのイスラーム、日本オリエント学会第 57 回大会 公開講演(招待講演) 2015年10月17日、北海道大学

河東 仁、西洋における metapsychisches Wesen の探究と記憶術、日本宗教学会第 74 回学術大会パネル(代表者：鎌田繁)「東洋の宗教思想と井筒俊彦の哲学的思惟」、2015年9月6日、創価大学

澤井 義次(Yoshitsugu Sawai)、"Izutsu's Semantic Perspectives of Indian Philosophy," in the panel "Toshihiko Izutsu and Oriental Religious Thought," 国際宗教学宗教史学会第 21 回世界大会、2015年8月27日、ドイツ・エアフルト

池澤 優(Masaru Ikezawa)、"Confucianism, Daoism, and Toshihiko Izutsu: Comments on 'Rectifying Names' and 'Being Arises from Non-being,'" in the panel "Toshihiko Izutsu and Oriental Religious Thought," 国際宗教学宗教史学会第 21 回世界大会、2015年8月27日、ドイツ・エアフルト

野元晋(Shin Nomoto)、"Toshihiko Izutsu (1914-1993) reads Isma'ili Texts: A Japanese Philosopher-Islamicist on a Shi'I form of Islamic Thought," 国際宗教学宗教史学会第 21 回世界大会、2015年8月24日、ドイツ・エアフルト

氣多 雅子、京都学派の宗教哲学 西田幾多郎と西谷啓治 -、韓国宗教学会・春季大会(招待講演) 2015年5月23日、韓国・西江大学校

市川 裕、公的宗教としてのユダヤ教とその現代の変容、韓国宗教学会秋季大会(基調講演)(招待講演) 2014年11月15日、韓国・東国大学校

鎌田 繁、井筒のイスラーム理解と流出論、日本宗教学会第 73 回学術大会パネル「井筒俊彦の『東洋哲学』への宗教学的視座」、2014年9月13日、同志社大学

市川 裕、祭司的ユダヤ教からラビ・ユダヤ教へ、日本宗教学会第 73 回学術大会パネル「ローマ帝国における諸民族と宗教」、2014年9月13日、同志社大学

澤井 義次、井筒・東洋哲学におけるコトバとその意味、第 56 回印度学宗教学会学術大会、2014年5月31日、種智院大学

〔図書〕(計 12 件)

澤井 義次 他、天理大学 DP センター、『井筒・東洋哲学の構築とその思想構造に関する比較宗教学的検討』平成 26 年度～平成 28 年度科学研究費助成事業・基盤研究(B) 2017、104

澤井 義次、『宗教學的省思 澤井義次的觀點』(増補再版)台湾宗教與社会協會、2017、274

島田 勝巳(共著)、『現代の課題と向き合うために 社会の中の天理教』、天理大学出版

部、2017、209

氣多 雅子（共著）『日本発の世界思想』、藤原書店、2017、374

澤井 義次、『シャンカラ派の思想と信仰』、慶應義塾大学出版会、2016、338

澤井 義次、『宗教學的省思 澤井義次の觀點』台湾宗教與社会協會、2016、172

鎌田 繁（共著）『宗教の壁を乗り越える 多文化共生社会への思想的基盤』、ノンブル社、2016、302

氣多 雅子（共著）『清沢満之と近代日本』、法蔵館、2016、276

鎌田 繁、『イスラームの深層 「遍在する神」とは何か』、NHK 出版、2015、285

河東 仁（共著）『夢見る日本文化のパラダイム』、法蔵館、2015、567

市川 裕（編）『図説ユダヤ教の歴史』、河出書房新社、2015、131

河東 仁（編）『夢と幻視の宗教史（下）』、リトン社、2014、304

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

「井筒俊彦データベース」

<http://www.tenri-u.ac.jp/topics/q3tncs00001diyeb.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

澤井 義次（SAWAI, Yoshitsugu）

天理大学・人間学部・教授

研究者番号：30178826

(2)研究分担者

鎌田 繁（KAMADA, Shigeru）

東京大学・東洋文化研究所・名誉教授

研究者番号：70152840

野元 晋（NOMOTO, Shin）

慶應義塾大学・言語文化研究所・教授

研究者番号：10276420

氣多 雅子（KETA, Masako）

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：20201478

市川 裕（ICHIKAWA, Hiroshi）

東京大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号：20223084

池澤 優（IKEZAWA, Masaru）

東京大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号：90250993

河東 仁（KAWATO, Masashi）

立教大学・コミュニティ福祉学部・教授

研究者番号：80224799

島田 勝巳（SHIMADA, Katsumi）

天理大学・人間学部・教授

研究者番号：30341043

(3)連携研究者（なし）

(4)研究協力者

安藤 礼二（ANDO, Reiji）

多摩美術大学・美術学部・准教授

小野 純一（ONO, Junichi）

東洋大学・非常勤講師

金子 奈央（KANEKO, Nao）

中村元東方研究所・研究員

下田 正弘（SHIMODA, Masahiro）

東京大学・人文社会系研究科・教授

長岡 徹郎（NAGAOKA, Tetsuro）

京都大学・非常勤講師

西村 玲（NISHIMURA, Rei）

中村元東方研究所・研究員

ロペス・パソス フアン・ホセ

（LOPEZ PAZOS, Juan José）

天理大学・国際学部・講師

若松 英輔（WAKAMATSU, Eisuke）

批評家